

第1回・第2回安芸高田市都市計画マスタープラン等策定委員会に おいて出された委員からの意見(要約)について

令和4年3月25日開催の第1回・第2回安芸高田市都市計画マスタープラン等策定委員会において委員から出されたご意見を、分類し意見を要約したものです。

①マスタープランと立地適正化計画の概要

発言者	意見(要約)
辻駒委員	説明を受けるまで、コンパクトシティをめぐる誤解を持っていた。今後、住民にも誤解や不安を解消してもらえるよう、説明を行う必要がある。

②現状分析・課題整理について

発言者	意見(要約)
廣中委員	市が保有する優れた自然環境や、神楽、毛利元就の日本を代表する地域資源など、市の強みも取り込み、魅力を高めることも取りまとめる。
廣中委員	<p>顕在化しつつある課題の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・密でない市の環境を活用したアフターコロナ施策 ・急速に発展するデジタル化への対応など
渡邊委員長	<p>旧町役場周辺の商業施設等を、人口減少が見込まれる中で、みんなで利用し、残す方法を考える。</p> <p>例えば、観光客など市外の来訪者や、長距離運転手などの通過交通需要の活用も考えられる。</p> <p>人口が減少する現状に対し、どのように都市を持続・発展させるかという点を、この委員会を通して議論し、マスタープランに盛り込めるとよい。</p>
渡邊委員長	<p>アンケートの運転免許保有の性別での整理が必要。特に高齢者は、女性が保有率は低いと思う。</p> <p>また、居住環境の満足度、および将来的に住み続けたいかについて、年齢別に整理をお願いしたい。</p>
加藤委員	5年前や10年前と比べると、他地域では高齢女性の免許保有率が増加している。本市における公共交通機関の利用者減少の一因である可能性もある。
加藤委員	<p>公共交通の充実を求める意見が多く、「日常の移動に不自由しない交通手段」を深掘りし、市の維持すべき公共交通機関の水準等の議論が必要である。</p> <p>公共交通は、人だけを運ぶのではなく、貨客混載等によって収益性を高めていくことも考えられることから、交通計画ともあわせた検討が必要。</p>
小川委員	交通について、芸備線や路線バスが今後も存続することを前提とされているが、10年後にこれらの路線が維持されているかは不透明であり、このような状況を踏まえた都市体系の検討が必要である。

③全体構想・分野別方針について

発言者	意見・指摘内容
渡邊委員長	交通に関する分野別方針として、 <u>中国自動車道高田ICの活用について検討</u> する。 例えば、 <u>高速バスによる広域アクセスの確保等</u>
小川委員	今回のマスタープラン策定で、 <u>32の地域振興会すべてで議論することまでは難しいかもしれないが、地域コミュニティの活性化に向けたきっかけとなる取組をしてほしい。</u>
山田委員	県の <u>東京の移住相談窓口で、近年、当市の人気が高まっている。</u> 当市は、知名度は高くないが、 <u>情報を届ければ関心を持つ方も多いため、マスタープランを移住等の情報が届けられる計画としてほしい。</u>
辻駒委員	住民は、 <u>支所機能を充実し、自分たちで地域を守り、安心して老後を暮らせる町にしたい。</u> 地域の多様な住民の意見、特に若い方の意見、女性の意見、高齢者の意見などを踏まえた計画を策定してほしい。
渡邊委員長	パブリックコメント以外にも <u>住民意見を確認する機会も設けるなど、住民対話は丁寧に実施する</u> とよい。
渡邊委員長	<u>生活サービスの質を落とさないなどの前提条件や、将来的に維持していくことが可能な水準についても、整理することが必要。</u>
渡邊委員長	<u>デジタル活用、地域コミュニティの活用など、どのように解決をしていくかについても検討できる</u> と、先程のご意見も踏まえたよい計画が策定できると考えられる。